

1976年の松溪中



令和7年度
杉並区立松溪中学校

SHOU
KEI

松溪だより

6月号



<http://www.suginami-school.ed.jp/shoukeichu/>

教育目標

- 自学・自立
- 思いやり・感謝
- 鍛錬

松溪中学校 創立 77 周年

校長 小松 進一

— 6月10日は創立記念日 —

松溪中学校は、昭和23年4月5日に、東京都杉並区下荻第二中学校（生徒数145名、学級数3、職員数7名、初代校長 高橋常吉）として杉並第二小学校仮校舎で開校、入学式を挙行しました。

当時教室には、借りた古い机と椅子があるだけで清掃用具さえなく、ある人はバケツを、また、ある人はほうきや雑巾を持ち寄り、欠けたお茶碗まで寄付してもらったそうです。

昭和24年6月10日に現在地に新校舎落成とともに、松溪中学校と改名し、現在に至っています。“松溪”命名の由来は、学校近くの近衛文麿公邸であった荻外荘（てきがいそう）の南側台地（西田の丘）に開校し、荻外荘から続く丘一帯に松林が続き、下を善福寺川が蛇行している風景があたかも中国の松と渓谷風景に似ているところから名付けられたとされています。

— 力みなぎり花あたたかに —

創立15周年記念誌に次のような記事があります。

『創立当初は雨が降ると運動場にはあちこち水溜まりができて体育にも事欠く始末で、雨上がりの体操は出来かねる状態だったが、その後割り石などを敷き、次第に整備された結果運動場としての用が足りるようになった。あの頃は、どこでも青空教室流行の時代で、とにかく殺風景なことだったが、本校は一步校門に足を踏み入れるとあたかも楽園のように四季折々の花が

咲き競い、見る人をあたたかく迎えてくれた。当時こんな逸話があった。

ある時、東京都から視察官が来校する旨の連絡があった。さあ大変、多少設備が整ったとはいえ、都教育視察のお役人を迎えることは一大事とばかり浅沼茂一校長（第二代校長）以下職員一同用意怠りなく整え待ち構えているところへご到着されました。視察官が校門を一步入られた時、美しい花壇を見て「このような学校は中を見なくても充分です。この花が学校のすべてを象徴しているでしょう」と本校の教育全般を高く評価され意外に簡単な視察で終わったとのことである。…校歌に「力みなぎり花あたたかに」とあるのは、作詞を依頼された勝承夫先生が、特にこの花壇の美しさに心打たれて詠み込んだものであるという。…』

現在の松溪中でもたくさんの木々があり、四季折々の花が咲き誇ります。卒業式や入学式では、美しい花が植えられたプランターが置かれ、来校する皆さんをあたたかく迎えているのは、花を愛する心が脈々と受け継がれているからなのかもしれません。

今年度から開校記念日を休業日といたしました。勉強を一休みし、松溪の地を心穏やかにゆっくり散策してみることで明日への活力が新たに湧いてくるのではと思っています。生徒の皆さんは、この日どのように過ごしましたか。



1953年校旗樹立式